

全身麻酔では呼吸が止まります

【麻酔科 金子 美帆】

皆さんは全身麻酔を受けたことがありますか？

全身麻酔では薬剤などの影響により、意識がなくなったり、呼吸が停止したり、血圧が大きく変動したりと、短時間にとってもダイナミックな変化が身体に起こります。

手術前に行う麻酔科の診察で呼吸が止まることを説明すると、大抵の方はとても驚きます。患者さんの中には、手術や麻酔に対して漠然とした不安や恐怖を感じている方も多いと思いますが、正しい知識を得ることは不安解消の一助となります。

全身麻酔の簡単な流れを紹介しますので、ご参考になれば幸いです。麻酔に関してご質問等ありましたら遠慮なくお申し出ください。

手術室入室

1. 歩ける方は徒歩で入室します
2. 手術台に仰向けに寝ます
3. **生体モニター**をつけます
4. 患者氏名、術式等確認します

生体モニター

- 心電図モニター:心拍数や不整脈、心筋虚血などを検知
- 血圧計:全身への血液の送り出しの目安、循環変動を表す
- 経皮的酸素飽和度:体中の酸素がどの程度あるか
- 脳波モニター(必要に応じて):麻酔のかかり具合を見る

麻酔導入

1. 酸素マスクを顔に密着させます
2. **全身麻酔薬**を投与します
3. 数十秒～数分で意識が消失します
4. 呼吸が停止します
5. **気管挿管**します
6. 麻酔器に装着して人工呼吸を行います

全身麻酔薬

- 鎮静薬(点滴または吸入ガス):意識を消失させます
- 鎮痛薬:痛みを取り除きます
- 筋弛緩薬:安全のため体を動かさないようにします

気管挿管

- 口→声帯→気管を通る人工呼吸用の管を入れます
- 手術中の命綱になります
- 操作中に歯が折れたりすることがあります

手術中

- 手術中は全身麻酔薬を投与し続けます
- 手術侵襲(体への負担)や手術の進行具合、体の状態などにより薬の投与量を増減します
- 血圧を維持する薬や心臓を助ける薬の投与、輸液の調節、輸血、体温管理なども行います

麻酔覚醒

1. 麻酔薬を中止すると5～10分程度で目が覚めます
2. 意識の回復、自発呼吸の回復、命令動作ができることを確認します
3. 人工呼吸の管を抜きます
4. 問題がないことを確認して病室のベッドに移動します

* 上記は代表的な一例であり、手術の種類や患者さんの状態により変わります

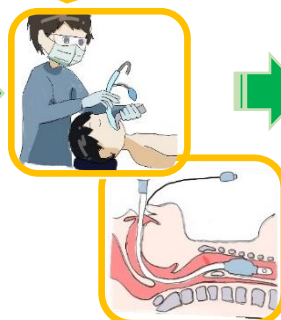
モニター装着



酸素投与



気管挿管



気管挿管後



令和6年能登半島地震 JMAT 活動報告

【看護師 湯山 久美・及川 美左恵】

活動場所: 石川県七尾市 JMAT能登中部調査支部(能登中部保健福祉センター内)
活動期間: 13隊 ▶ 令和6年3月7日~10日 17隊 ▶ 令和6年3月19日~22日

JMAT(日本医師会災害医療チーム)は、医療救護班の一形態として、被災地の医療救護所や避難所等での医療支援と健康管理、公衆衛生支援、被災地医師会の支援等の活動を行います。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震は、最大震度7を観測し、石川県は能登半島を中心に甚大な被害を受けました。JMATは、全都道府県医師会から石川県へ派遣され、私達はJMAT宮城の13隊、17隊として医療支援活動を行いました。JMAT活動の目的は、被災者の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生を回復し、地域医療の再生を支援することを目的とします。

その最終目標は『被災地に地域医療を取り戻す』ことにあります。

私達の主な活動内容は能登中部調整支部で統括JMATとして避難所における医療ニーズの調査、活動JMATへの指示、本部会議で報告の担当や避難所施設訪問の担当決めでした。担当した志賀地区避難所と富来地区避難所は、最初は高齢者グループホームを含めて約30箇所ありましたが、3月時点で約半数に減少しており、避難者数も100名を超える大所帯から10名あまりの小所帯もありました。主なニーズとしては、精神的なストレスに対する対応、コロナに罹患後の経過観察、下肢むくみや、病状の悪化があった方など病院受診が必要な場合の連絡調整を行いました。この時期は地域の医療も復活してきている状況であり、医療支援と共に被災された方々の生活支援が必要な時期でした。その現場の状況に合わせた支援を考え、行政などに進めていくことも重要だと感じました。

今回統括JMATの活動に参加し、沢山の支援チームとの連携の大切さを肌で感じる事が出来ました。能登半島地震から一年が経過した今も、被災された多くの方々が厳しい暮らしを余儀なくされています。一日でも早く平穏な生活ができるよう心よりお祈り申し上げます。

※JMATになるためには、医療・介護関係者であれば、特別な資格が必要なわけではありません。JMATに参加したいという強い使命感さえあれば参加することができます。



車いす操作勉強会を開催しました

12月19日

車いすご利用の患者さまが安心して当院を利用できるよう、院内スタッフの対応力向上を目指して車いす勉強会を開催しました。

患者さまを安全かつ安楽に移送する手順や注意点について、スタッフを車いすに乗せた状態で実際に体験しながら学びました。患者さまの立場となり車いすでの移動を経験したことで、介助を行う際に気を付けるポイントをよりしっかりと学習することができました。今後も引き続きホスピタリティの向上に努めてまいります。

